

取組46「プール施設のあり方」

1 いきいきセンターの取組

(1) プール施設のあり方の検討の経過

平成19年12月に開催された行政改革推進本部において、機能転換が必要な体育施設の一つとして位置づけられ、「3つの温水プールのうち少なくとも1箇所の温水プール機能を停止し、存続する施設に機能を集約して、施設利用効率を上げていくものとする」とされた。

平成20年6月の議会では、「いきいきセンターの性格と存在意義について」の一般質問に対して、「いきいきセンターは、市民のスポーツ及び健康づくり並びに地域の交流施設としての役割を有している施設であるが、機能転換を図った方がいいという結論が出ており、温水プール機能を停止する施設は、いきいきセンターとしている」と答弁した。その後、関係各課の会議において、効率的な運営方法について検討し、9月の議会で「いきいきセンターの温水プールの存続について」の一般質問に対しては、「健康増進にかかる健康づくりに活用していくよう検討することになった」と答弁した。

期 日	取組等の経過
平成20年11月	「行財政改革元年」における行政改革の取組により、施設の効率的運営を推進するため、平成21年度の取組として、冬季（12月～2月）の運営の休止と運営時間の短縮（午後7時以降2時間短縮・10月、11月及び3月は午後6時以降3時間短縮）を行うことにした。
平成21年4月	運営時間の2時間短縮の取組（9月末まで）
10月	運営時間の3時間短縮の取組（11月及び3月）
12月	運営休止の取組（22年2月まで）
平成22年3月	運営休止期間における利用動向調査の実施
平成23年4月	22年度と同様の取組

(2) 利用者数と経費の削減額

		平成20年度	平成21年度	平成22年度
利用者数		26,750人	20,316人	20,299人
収入	使用料	3,678,380円	2,505,990円	2,546,420円
支出	管理運営業務委託料	13,282,500円	10,505,250円	10,500,000円
	シルバー人材センター業務委託料	3,839,794円	3,461,416円	2,769,282円
	電気料	4,932,059円	3,225,684円	3,324,276円
	上下水道料	3,334,865円	3,051,170円	4,149,220円
	重油代	6,216,634円	2,783,465円	3,300,253円
支出計		31,605,852円	23,026,985円	24,043,031円

【平成21年度（平成20年度比較）】

利用者数 △6,434人
 使用料(a) △1,172,390円
 支出計(b) △8,578,867円
 削減額 △7,406,477円 (b-a)

【平成22年度（平成20年度比較）】

利用者数 △6,451人
 使用料(c) △1,131,960円
 支出計(d) △7,562,821円
 削減額 △6,430,861円 (d-c)

(3) 職員数（いきいきセンター係）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
職員数	1人（係長職）	1人（再任用職員 ^{※2} ）	0人（係の廃止）
非常勤職員 ^{※1}	—	2人 ^{※2}	2人

※1 非常勤職員は、非常勤嘱託員1人と非常勤職員1人

※2 再任用職員は5月31日まで、非常勤職員は6月4日から雇用

(4) 平成23年度・平成24年度の実施計画

継続して冬季（12月～2月）の運営の休止と運営時間の短縮（午後7時以降2時間短縮・10月、11月及び3月は午後6時以降3時間短縮）に取り組み、効果的な運営方法について検討する。

2 市民プールの取組

(1) プール施設のあり方の検討の経過

「行財政改革元年」における行政改革の取組において、プール施設については、今後、施設の効率的に運営を行う必要があるため、市民プールについては、開館時間の短縮や統廃合等を検討することとした。

いきいきセンターにおける運営の効率化の状況を踏まえ、平成22年10月から平成23年3月までの6か月間の開館時間を1時間短縮し、午後8時までにした。

(2) 利用者数と経費の削減額

		平成21年度	平成22年度	比較
利用者数		32,510人	33,994人 ^{※1}	1,484人
収入	使用料(e)	6,348,660円	6,203,200円 ^{※2}	△145,460円
支出	管理運営業務委託料	31,499,500円	29,837,850円	△1,661,650円
	シルバー人材センター業務委託料	3,124,393円 ^{※3}	2,079,690円	△1,044,703円
	電気料	8,892,439円	9,397,645円	505,206円
	上下水道料	3,456,588円	3,792,774円	336,186円
支出計(f)		46,972,920円	45,107,959円	△1,864,961円

※1 平成22年1月の利用者数は、機器故障により閉館したため、0人であった。

※2 プリペイドカードの利用と1時間利用券の発行により、平成22年度の使用料は、減少した。

※3 平成22年1月から3月までの間は、職員が1人減少したため、シルバー人材センター業務委託料が増加した。

【平成22年度（平成21年度比較）】

削減額 △1,719,501円 (f-e)

(3) 職員数（市民プール係）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
職員数	2人	2人	2人

(4) 平成23年度・平成24年度の実施計画

継続して10月から3月までの6か月間の開館時間の1時間短縮するとともに、指定管理者制度の導入に向けた事務作業を進め、平成24年度から指定管理者による管理運営に移行する予定である。

〔指定管理までのスケジュール〕

7月…公募による応募資格等の決定

8月…公募の実施

9月…申請の受付

10月…指定管理者候補の選定

12月…市議会の議決

4月…指定管理者による管理運営の開始

スケジュール（いきいきセンター）

期 日	取組の経過
平成12年12月	公共施設再配置計画において、水着リフレッシュゾーンを廃止の方向で検討することになった。
	議会で、水着リフレッシュゾーン機能廃止について、一般質問があった。
	健康増進を図る施設として、さらに機能の充実強化が段階的に図られるよう取り組むことになった。
平成13年12月	議会で、いきいきセンターの改修について、一般質問があった。
	健康増進施設としての機能充実を図るためのバリアフリー化や維持管理経費を縮減するための温水の循環装置を設置していくことになった。
平成19年12月	行政改革推進本部において、機能転換が必要な体育施設の一つとして位置づけられ、「3つの温水プールのうち少なくとも1箇所の温水プール機能を停止し、存続する施設に機能を集約して、施設利用効率を上げていくものとする。」とされた。
平成20年6月	議会で、いきいきセンターの性格と存在意義について、一般質問があった。
	いきいきセンターは、市民のスポーツ及び健康づくり並びに地域の交流施設としての役割を有している施設であるが、機能転換を図った方がいいという結論が出ており、温水プール機能を停止する施設は、いきいきセンターとしている。
平成20年9月	議会で、いきいきセンターの温水プールの存続を求めて、一般質問があった。
	関係各課の会議を開き、見直しも必要な施設ではあるが、健康増進にかかる健康づくり等で活用していくよう検討していくことになった。
平成20年11月	「行財政改革元年」における行政改革の取組により、平成21年度の取組として、冬季（12月～2月）の運営の休止と運営時間の短縮（午後7時以降2時間短縮・10月、11月及び3月は午後6時以降3時間短縮）を行うことにした。
平成21年4月	運営時間の2時間短縮の取組開始（9月末まで）
10月	運営時間の3時間短縮の取組開始（11月及び3月）
12月	運営休止の取組開始（22年2月まで）
平成22年3月	運営休止期間における利用動向調査の実施
平成23年4月	前年度同様の取組開始